

緑化だより

No.169 令和 3年 3月号



キブシ

- 季節の花(ニワトコ)
- 昆虫の話
(古池でひっそり生きる・クロゲンゴロウ)
- 小さな世界こけ(コケが観察できる場所(11-2))
- 研修会のご案内
- 展示会
- お知らせ・ご案内



ryokka 緑化センターの本

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>

季節の花

ニワトコ

「君が行(ゆ)き 日(け)長くなりぬ 山たづの

迎へを行(ゆ)かむ 待つには待たじ」

衣通王(そとほしのおほきみ)万葉集 巻2-90

これを訳しますと

(恋しいあなたが行ってしまわれてから随分と日が過ぎてしまいました。寒い冬の最中でも早く新芽を出す山たづのように、あなたを早く迎えに行きましょう)

この歌を詠んだ衣通王(:軽太郎女 かるのおおいらつめ)はとても美人で、古事記によれば、兄の軽太子(かるのひつぎのみこ)と愛し合うようになりましたが、同じ母を持つ兄妹の結婚は禁じられていたため、兄は伊予の湯(愛媛県松山市道後温泉)に追放されました。その時の恋慕の気持ちを詠った歌です。

ニワトコは、古語では「山たづ」と呼ばれます。葉が向かい合ってつき、他の植物よりも早く新芽が出ることから、神迎えの霊木として用いられていました。

ニワトコはレンプクソウ科(もとはスイカズラ科)ニワトコ属で、北海道、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国大陸に自生しています。落葉低木で、早春に、淡い黄色の5弁の小花が房状に咲き、夏から秋には赤い実をつけます。

漢字では接骨木(ニワトコ/せっこつぼく)と記し、古くから、枝や幹を煎じて水あめ状になったものを、骨折の治療の湿布剤に利用したことが由来です。

新芽は山菜として食用になり、民間薬や漢方薬としても利用されます。

昔から日本に自生しているニワトコは、万葉人が早くから目に止めていたと思うと感慨深いです。(上村)



ニワトコの花

昆虫の話

古池でひっそり生きる・クロゲンゴロウ

早春、山中の池はまだ水温が低く、あまり動くものの気配はありません。水中には冬の間産み付けられたカエルの卵が漂っています。そんな中、落ち葉の間を泳ぎ回る黒い甲虫を目にすることがあります。呉娑々宇山周辺で見られるゲンゴロウとしては最も大きい、クロゲンゴロウです。大きさは25mmほど、名前の通り全身が光沢のある黒で、水中で小さな生き物や動物の死骸を食べて生活しています。丸みを帯びた愛らしい姿をしており、観察会などで見つかった際は子供たちの人気者になります。

日本には様々なゲンゴロウがいますが、その大部分、中でも大型の種類は目にする機会が減ってしまいま



クロゲンゴロウ

た。原因は湿地の開発と外来種の侵入、農薬の使用です。そんな中、クロゲンゴロウはまだ比較的多く見られます。原因は彼らの生活環境にあります。クロゲンゴロウは森に囲まれた山中の池で主に生活するため、平野部の湿地帯を好む他のゲンゴロウと比べ開発や農薬の影響を受けにくかったと考えられます。呉娑々宇山周辺の池では現在も観察することができますが、近年では土砂の流入や増えすぎたシカによる水生植物の食害等によって徐々にその数を減らしています。

クロゲンゴロウの繁殖期は春で、まだ水温が低いうちから活発に活動し、芽吹いたばかりの水生植物へ卵を産み付けます。やがて孵化した幼虫は、豊富にいるオタマジャクシを食べて成長します。もし春の水辺を訪れたら、水中を泳ぎ回る黒い影がないか、ぜひ探してみてください。(市森林公園 こんちゅう館 逸見)

小さな世界 こけ

コケが観察できる場所(11-2)

今回も⑧の看板のある溪流で観察しましょう。

溪流の土手や、岩にはクモノスゴケが、溪流の岩にはクマノゴケが見られます。

タイ類のクモノスゴケは、谷沿いの湿った岩や土の上に、重なるように群落を作っています。葉の幅は約5mm、長さ3~5cmの細長い葉状体で、葉先は細くなり、仮根を出します。薄い緑色の葉状体は二股に分かれながら伸び、これがクモの巣に見えるところから名前がつきましたが、どう見てもクモの巣には見えません。

葉の中央には脈がはっきりと見え、葉の縁には粗い鋸歯があり、顕微鏡でみると、その先端は細長い単細胞になっています。孢子体は、11月頃から中央の脈の上に作られ、透明な膜(包膜)で包まれています。春になると膜の中から孢子体が顔を出し、長い透明な柄の先に黒い円柱形の孢子のうをつけます。

セン類のクマノゴケは、溪流の水しぶきがかかる岩に、濃い緑色のマットを作ります。へばりついたコケは、ヘラなどで剥がそうとしてもなかなか取れません。

葉は、長さ5~6mm、幅0.2~0.3mmと細く小さいですが一度見ればわかりやすいコケです。

4月頃、孢子体をつけますが、柄は短く、葉の間から孢子のうが顔を出します。孢子のうの形はイクビゴケ(令和2年4月号で紹介)に似ています。広島県絶滅危惧Ⅱ類に指定されていますが、緑化センター内では数カ所の溪流で見ることができます。(山根)



クモノスゴケ



クモノスゴケの孢子体



クマノゴケ



クマノゴケの孢子のう

研修会のご案内

- 3月3日(水)『**針葉樹の見分け方**』
～葉の構造を見る～
室内で実物の葉っぱを見て、特徴や見分け方を学ぼう
※自由参加・無料、ルーペ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林植物研究家 埴田 宏
- 3月5日(金)『**果樹の手入れ(春)**』
～春の手入れを学ぼう～
室内で、春の果樹の手入れについて学ぼう
※自由参加・無料
10:00～12:00 学習室 集合
講師 元県立農業技術センター果樹研究部 三原分室室長 石井 實
- 3月10日(水)『**コケの観察会**』
～コケはすでに春支度～
室内で基本を学んだあと、屋外で観察します。
※自由参加・無料、ルーペ持参
10:00～12:00 学習室 集合
講師：広島大学名誉教授 関 太郎
- 3月19日(金)『**3月の自然探勝**』
～あの花は咲いているかな～
散策しながら植物を観察します
※自由参加・無料
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：緑花文化士 横山 直江
- 3月20日(土・祝)『**早春のバードウォッチング**』
散策しながら野鳥を観察します
※自由参加・無料、双眼鏡持参
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：日本鳥類保護連盟会員 吉見 良一
- 3月29日(月)『**早春の写真教室**』
～早春の花を撮ろう～
歩きながら植物の撮影を学びます
※要予約(先着20名)、無料、カメラ持参
10:00～12:00 学習展示館前 集合
講師：二科会会員 宗岡 泰昭

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆お知らせ・ご案内☆

- ・春のおでかけキャンペーン 3月13日(土)～5月23日(日)
「ひろしま遊学の森スタンプラリー2021 春」
緑化センターと森林公園の両園でスタンプを集めて景品ゲット!
- ・さくら祭り 3月20日(土・祝)～4月18日(日)
さくらクイズに答えて景品ゲット
期間中、早咲から遅咲きのサクラ約60種類が楽しめます。
- ・ピクニックウォーク 3月14日(日) 10:00～15:00
- ・ノルディックウォーク 3月28日(日) 11:00～12:30

◎ 展示会

- 場所:レストハウス
(ガラスケース展示)
- ・DECO クレイクラフト展 ～3月18日(木)
(ボード展示)
- ・「こけの表情いろいろ」写真展 3月6日(土)～3月20日(土・祝)



「DECO クレイクラフト展」より



「こけの表情いろいろ」写真展より